

【防府市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築に向け、令和3年1月26日付で中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が答申された。この中で、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することが示された。

このことを踏まえつつ、本市では、令和2年度に整備した1人1台端末と通信ネットワーク等のICT環境を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進に取り組み、子どもたちの学習意欲、コミュニケーション能力、情報活用能力の向上をめざす。

(第5次防府市総合計画から抜粋)



チームDASH(Digital Advanced Study in Hofu)は、デジタル機器を活用した先進的な授業の研究を行う、教員や専門家などで構成するプロジェクトチーム

スケジュール

項 目	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
ICT環境を活かした教育の推進	教職員のスキルアップ					→
	つながる・広がる・深まる「防府スタイル」の学びの実践					→

2 GIGA第1期の総括

本市では、令和2年度に離島を除く市内公立全小中学校に大容量の通信ネットワークを整備するとともに、全児童生徒分のタブレット端末9,006台(iPad セルラーモデル)を整備するなど、学びを支えるICT環境の充実に取り組んできた。

こうした環境の中、学習の記録を残すために、タブレット端末を広く活用しているほか、英語科の授業では自分の発音を録音後、正しい発音に修正する実践や保健体育科の跳び箱の学習では、跳ぶ様子を録画した動画を見せ合って、気づきを伝え合う実践等を行っている。

また、令和6年度の「全国学力・学習状況調査」の中の「児童生徒質問」によると、「ICT機器をどの程度授業で使ったか」という項目に対して、本市では、「ほぼ毎日」と答えた小学校6年生は47.2%であった。中学校3年生においては68.9%であった。これは、県や全国の数値と比べると小学校は約20ポイント、中学校は約30ポイント以上高い値であった。

さらに、「タブレット端末を授業で活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなるか」という項目については、本市の「とてもそう思う」と答えた小学校6年生は55.2%、中学校3年生は49.2%であった。この項目についても、県や全国と比べると小学校は約10ポイント、中学校は約7ポイント以上高い値であった。これらの数値から、小・中学校ともに、日常的に授業でタブレット端末を活用し、ICT機器の有用性を感じていることがわかる。

これは、ICT機器を効率的に活用するために、教員のスキルアップを行ったことや、通信環境によらず使用できるセルラーモデルを導入したこと、ICT活用研究プロジェクト「チームDASH」※で研修を進めてきたことの成果と考える。

※チームDASH (Digital Advanced Study in Hofu) は、デジタル機器を活用した先進的な授業の研究を行う、教員や専門家などで構成するプロジェクトチーム

3 1人1台端末の利活用方策

【1人1台端末の積極的活用】

児童生徒の1人1台タブレット端末のICT環境を生かした教育の推進により「つながる・広がる・深まる『防府スタイル』の学び」を今後も実施していく。

【個別最適・協働的な学びの充実】

本市では、授業支援アプリを活用し、自分の意見をグループや全体に共有するなど協働的な学びを実践し、また、児童生徒がタブレット端末を持ち帰って学習支援アプリへ取り組むなど個別最適な学びを実践しており、今後も教員間の研修などをとおして研究をし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実について一体的に取り組んでいく。

【学びの保障】

本市では、家庭の通信環境に左右されずに使用できる、セルラーモデルのタブレット端末を整備し、学校において授業支援アプリを活用した学習課題の配付・提出や授業配信、共同編集等をしており、オンライン学習をすることができる環境が整っている。これにより、不

登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒の学びの幅を広げ、学びの保障や教育の機会均等を確保している。今後も、教員間で、オンライン学習のノウハウを共有し、より充実した学びの保障に取り組んでいく。